ISSN 1348－6578

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA:REPORT

大阪府立 国際児童文学館

REPORT

No. 23　2004. 10. 1

発　行　財団法人大阪国際児童文学館
〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6
大阪府立国際児童文学館内
TEL (06)6876-8800 FAX (06)6876-8686
http://www.iiclo.or.jp

「デジタル・ミュージアム」の開設

子どもの本は、明治中期から数えても一〇〇年以上の歴史があります。当館は、明治期から現代まで、七〇万点を超える子どもの本に関わる資料を所蔵しており、その貴重な資料を子どもたちに公開し、その歴史を伝える目的で、このたび『子どもの本　いま・むかし』と名づけた子ども向けの電子博物館をホームページ上に開設いたしました。

現代の子どもたちの関心に沿うよう、「家族」「学校・友だち」「ふしぎな世界」「冒険・探検」「推理・探偵」という五つの人気ジャンルごとに、一〇〇年以上昔に出版された作品から、現代のベストセラーまで、幅広く取り上げています。表紙やイラストなどの画像に加えて、作家紹介、時代やジャンルの特徴をまとめた各種コラム、各作品の関連情報をまとめた「豆知識」など楽しいコーナーが充実しており、日本の子どもの本の歴史を楽しみながらたどることができます。明治・大正期の作品を中心として、朗読を聞くことのできる作品もありますので、現代の文体と昔の文体の違いも実感してもらえます。

日本の作品では、『こがね丸』『花物語』『猿飛佐助』『とらちゃんの日記』などの過去の作品から、『バッテリー』『魔女の宅急便』『夏の庭』『カラフル』などの現代の作品まで取り上げています。また、海外の翻訳作品では、『ふしぎの国のアリス』、『少公子』、アンデルセン童話、『クオレ』など世界の古典の初期の翻訳書も取り上げています。

各作品の表紙や挿絵など、日本の子ども向けイラストレーションの歴史も垣間見ることができます。

なお、サイト全体を彩る挿絵やキャラクターは、大正～昭和初期を代表する童画家の一人である村山知義（一九〇一～七七）の作品から使わせていただきました。この事業は「子どもゆめ基金」の助成事業です。

アドレス：http://museum.iiclo.or.jp

共同研究
〇・一・二歳児を対象とした絵本
―その意義と活用―

当館では、二〇〇二年度から「赤ちゃん絵本」に関しての調査・研究活動を開始しました。二〇〇三年度は、次の研究を行いました。

まず、保護者に対するアンケート調査とインタビューから、〇歳、一歳の子どもの保護者が、「絵本」や「子どもと絵本を楽しむこと」について考えていることを調べました。府内の乳幼児健診時を利用してアンケート調査を行い、約三〇〇〇人から回答をいただきました。保護者の多くは一歳半ごろには子どもと絵本をみており、親子のふれあいを絵本の効果として重視する傾向がありました。次に約三〇人の保護者へのインタビューと家庭にある絵本の調査を行った結果、赤ちゃんを意識して作られていない絵本も多数所有しており、読み方は、言葉を足す、省略するなどテキストに変化をつけて読む傾向がありました。

次に絵本の実態を調査するために、出版社の目録で年令対象を「〇・一・二歳」もしくは「赤ちゃん」と表記されている図書一三四三冊を抽出し、特徴を集計しました。例えばページ数に関しては、一一～二五ページが最も多く、大きさは二〇～二四cmが最も多いという結果がでました。素材は通常の紙以外に三八％は圧縮ボール紙を使用していました。

二〇〇四年度も引き続き、「赤ちゃん絵本」をテーマに研究を行っていきます。

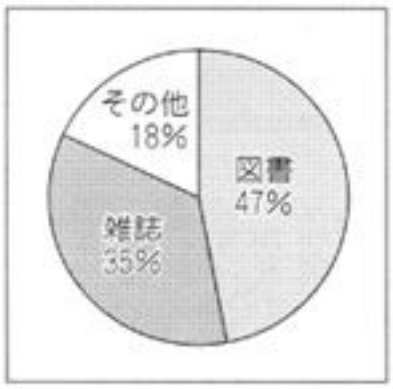
資料収集

当館は、二〇〇三年度、新たに一七一一三点の資料を収集しました。おかげさまで、二〇〇四年三月末現在、所蔵資料点数は、七〇〇〇〇点に達しました。

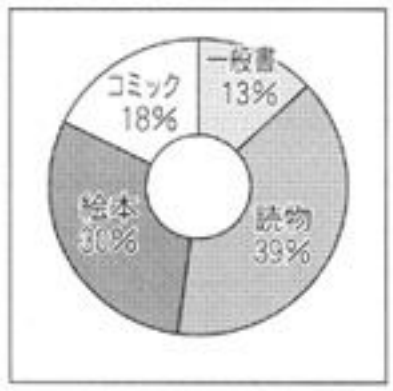
◆所蔵資料（2004年３月末現在）

所蔵資料点数	700,000 点		
図　書	333,000 点	和図書	301,000 点
		洋図書	32,000 点
雑　誌	244,000 点	和雑誌	230,000 点
		洋雑誌	14,000 点
その他	123,000 点		

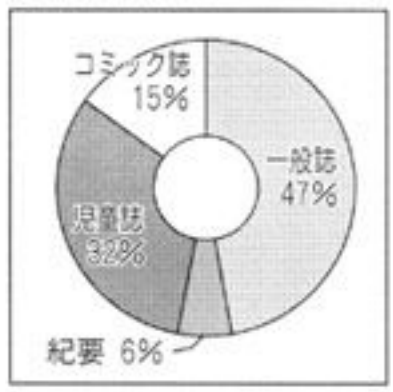
所蔵資料内訳



所蔵図書内訳

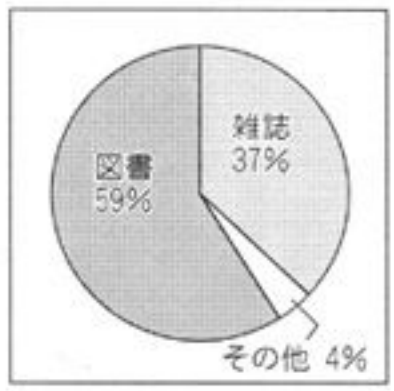


所蔵雑誌内訳

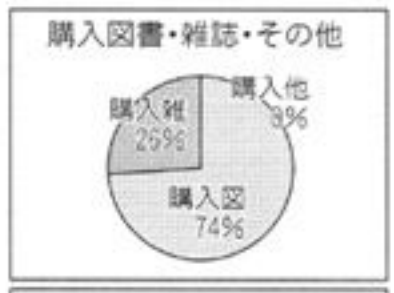


◆増加資料（2003年４月～2004年３月）

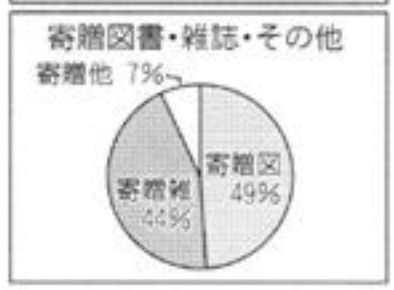
増加資料点数	17,113 点		
図　書	10,077 点	和図書	9,638 点
		洋図書	439 点
雑　誌	6,272 点	和雑誌	6,091 点
		洋雑誌	181 点
その他	764 点		



購入図書・雑誌・その他

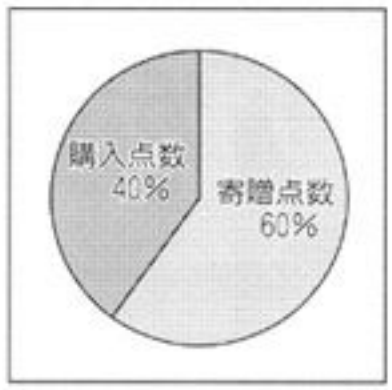


寄贈図書・雑誌・その他



寄贈・購入点数

寄贈点数	10,246 点
図　書	4,965 点
雑　誌	4,519 点
その他	762 点
購入点数	6,867 点
図　書	5,112 点
雑　誌	1,753 点
その他	2 点



当館では、これらの資料を様々なかたちで活用・研究・公開しております。

この「REPORT」では、二〇〇三年四月から二〇〇四年三月までに行った当館の活動の概要をご報告します。

閲覧室でカラーコピーサービス開始

四月から二階閲覧室でカラーコピーサービスを開始しました。料金は、カラーコピーは一枚一五〇円、白黒コピーは従来通り三〇円です。従来からカラーコピーは利用者の要望も高く、導入したことによってコピー利用も増加しました。（カラーコピー二八〇〇枚・白黒コピー六〇一〇〇枚、マイクロコピー六〇〇枚）。なお、閲覧室利用者は四二〇〇人、閲覧冊数は三七〇〇〇点、レファレンス件数は一一〇〇件でした。

「日本の子どもの本一〇〇選（一八六八～一九四五）」完成

当館では、児童書を文化資料の視点でとらえ、その解説および書誌を記して、次代と海外に伝えたいと、「日本の子どもの本一〇〇選」（日本財団助成事業）として、その第一期分を二〇〇四年四月に当館ホームページに掲げました。

これまで日本児童文学史資料を記録したものに、当館の事典編集や雑誌復刻、あるいは、日本児童文学学会編の事典など多くの先行業績があります。今回はそうした先行研究を参考にしつつ、その本にかけた作者や出版社の情熱、読者の熱い思いを記録したいと考え、一冊ずつの解説と書誌をより精確に記述し、文学史上の位置づけを試みました。第一期は一八六八年以後一九四五年までの児童書一〇〇冊が対象です。どうぞご利用ください。

展示

◆「絵本に見る夢―ヨーロッパの国々から」協力／国立国会図書館　国際子ども図書館　四月一〇日～五月一一日

◆「アフリカの子どもの本」協力／国立民族学博物館江口研究室　五月一二日～七月二九日

◆「ロボット漫画の系譜」企画協力／竹内オサム氏（同志社大学教授）　八月一日～九月二九日

◆「国際グリム賞」共催／財団法人金蘭会　一〇月二日～一一月二九日

◆「むかしの子どもの本」一二月一日～二月一一日

◆「第二〇回ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品展」協賛／日産自動車株式会社　三月一日～三月二九日

特別貸出

当館の資料を貸し出した展示をいくつかご紹介します。

◆「子どもに夢を与えつづけた岡本帰一―故郷に帰る」展／兵庫県立淡路文化会館と洲本市民工房／一一～一二月／雑誌「コドモアサヒ」他　全二九点

◆「『正チャンの冒険』八〇年」展／逓信総合博物館／一一月～二〇〇四年一月／『正チャンの冒険　一の巻』他　全五五点

◆「幻のロシア絵本　一九二〇～三〇年代」展／芦屋市立美術博物館／二～四月／雑誌「コドモの本」他　全四二点

◆「絵本が語る昭和の子どもたち」展／浦安市立郷土博物館／三～五月／雑誌「キンダーブック」他　全二四四点

共同研究

・インターネットを用いた子ども向け図書検索システムの開発研究

二〇〇三年度の研究テーマは、①ソフト活用に関するアンケート調査・分析、②教育現場での実践事例収集および分析、③新規書誌情報および表紙画像の追加投入、④成果の公表を行いました。①及び②では、課題やニーズ、改善案を把握することができました。③については、登載されている情報量の増加だけでなく、情報そのものの精度を高め、活用事例に応じてその改善案の作成を行いました。④については、日本教育工学会、日本人間工学会、日本知能情報ファジィ学会で成果の公表を行ない、他分野からの意見を聞くことができました。

二〇〇四年度は、二〇〇三年度に明らかになった課題の中で、特に読書活動支援に貢献できると思われる「子ども向き物語キーワード体系表の構築」を重点的に行います。

・〇・一・二歳児を対象とした絵本
―その意義と活用―　一頁参照

出版物

◆『外国人客員研究員報告集二〇〇二年度』

・論文「今日の児童文化における赤ずきんの不変的人気について」サンドラ・ベケット（ブロック大学教授）

・論文「『童話伝統批判』をめぐる一考察」鄭如峰

・講演録「赤ずきんは、今」サンドラ・ベケット（ブロック大学教授）

講座・講演会

◆「紹介と解説　二〇〇二年度に出版された子どもの本」講師＝西村寿雄（科学読物研究会）・当館職員／場所＝当館講堂／四月二八日・二九日

◆ボランティア支援連続講座「子どもと本をよむ」／講師＝永田桂子（児童文化研究者）・当館職員／場所＝当館セミナー室／五月二〇日～六月二四日（毎週火曜日・五回連続）

基調講演「本はステキな友だち」講師＝中川正文（当館館長）／場所＝当館講堂／六月三日

◆ブラサンサさんを囲む会「スリランカの子どもの本」講師＝ブラサンサ・カルコッテゲ（当館客員研究員・ジャヤワルデネブラ大学助教授）／場所＝当館セミナー室／六月二八日

◆「人形劇講座―入門編―」講師＝松本則子（人形劇団クラルテ）／場所＝当館セミナー室／一一～三月（毎週火曜日・一〇回連続）

第九回国際グリム賞 ピーター・ハント教授が受賞

国際グリム賞は、世界的な児童文学研究の業績をあげた研究者に贈呈する賞です。一九八七年から、財団法人金蘭会との共催により、二年に一度贈呈してきました。

今回の受賞者、ピーター・ハント教授（＝写真）は、一九四五年、英国ラグビー生まれ。一九八二年に博士号を取得し、一九八八年よりカーディフ大学で英文学、児童文学を講じておられます。教授は、『アーサー・ランサム』（一九九一）、『子どもの文学――現代批評』（一九九二）、『児童文学入門』（一九九四）、『子どもの本の歴史』（一九九五）、『世界児童文学事典』（一九九六）など、幅広い編集・著作活動で知られています。加えて、国際誌での批評活動、審査員としての仕事、世界各地での講演活動などを通じ、児童文学研究の学術的水準を向上させ、同分野が一学問領域として確立するうえで多大なる貢献を果たしてこられました。

国際グリム賞
ピーター・ハント教授

一〇月二六日（日）に当館講堂にて行われた記念講演で、ハント教授は、『児童文学を語るさまざまな声――何をいかに語るべきか』と題して、児童文学研究が学問領域として確立するに至った過程を、自らの研究史に重ねて概観するとともに、批評理論や社会動向がもたらした文学研究の変化を視野に入れて、今後の児童文学研究のあり方を提言されました。講演原稿は当館紀要一八号に掲載されます。

ベトナムから客員研究員を招聘

企業の賛助金と大阪府の補助金を原資として、海外の児童文学研究者を一定期間招聘する「外国人客員研究員制度」は、一九八九年にスタートし、これまでに二五ヶ国、のべ四〇人の研究者を当館にお招きしてきました。

今回の研究員、グュェン・ド・アン・ニェン（Nguyen Do An Nhien）さんは、一〇月からの滞在期間中、宮沢賢治作品の研究に取り組み、『風の又三郎』のベトナム語訳と論文『ベトナム読書環境からみる宮沢賢治の童話における教育性』を完成させるいっぽうで、日本各地で開

催される学会や研究会にも積極的に参加して、日本の研究者との交流を深めました。なお、滞在中の成果は二〇〇三年度客員研究員報告集に掲載されます。

二〇〇四年三月までの研究期間を終え帰国したニェンさんは、現在、故郷ホーチミン市で、『風の又三郎』の出版準備に奔走中です。

★二〇〇三年度に本制度をご支援くださった賛助企業は次のとおりです。（五十音順）

大阪ガス株式会社／関西電力株式会社／近畿日本鉄道株式会社／梨原工業株式会社／サントリー株式会社／武田薬品工業株式会社／株式会社竹中工務店／東洋紡績株式会社／松下電器産業株式会社

大阪府子ども読書活動推進事業

「大阪府子ども読書活動推進連絡協議会」の事務局として、次のような事業を進めました。

◆フォーラム「子どもの豊かな読書環境を支える―学校図書館と公立図書館の連携―」の開催／九月一二日／場所＝大阪市立弁天町市民学習センター〈パネラー＝山之口綾子（堺市立白鳥小学校司書教諭）・北村幸子（学校図書館を考える会・近畿代表）・谷垣笑子（豊中市立岡町図書館司書／コメンテーター＝塩見昇（大谷女子大学教授）〉

◆「ファシリテーター講座」（三回連続）と「おはなしボランティアスキルアップ講座」（五回連続）の開催（＝写真）／同様の内容で府内三カ所で三回実施

おはなしボランティアスキルアップ講座

◆「ファシリテーター講座・スキルアップ講座修了者交流会」と「講演会」／〈講演会講師＝清水眞砂子（児童文学者）二〇〇四年三月一九日／場所＝ホテルアウィーナ〉

団体利用プログラム

より多くの子どもが読書の楽しさを味わえるように、児童文学・児童文化の専門職員が日頃の実践や研究の成果を生かして、子どもたちに直接サービスする「団体利用プログラム」を用意し、二〇〇一年の夏から提供しています。これは、保育所・幼稚園・小学校・中学校、その他団体で利用していただくプログラムです。

たとえば、「テーマ別のおはなし（魔法・ナンセンス・クマ・食べ物など）」「昔話に親しもう」「ワークショップ（おはなしであそぼう）」「子どもの本の歴史」などのテーマで、素話・絵本・朗読・ビデオ・紙芝居・本の紹介・解説・ワークショップなどを織り交ぜて、子どもたちが本や物語の世界にふれて楽しい時間がもてるように魅力的なプログラムを用意しました。

二〇〇三年度は、二五〇〇人の子どもたちが利用し、大変好評を得ました。このプログラムの利用には、事前の予約が必要です。くわしくは、当館までお問い合わせください。

こども室行事

こども室では、おはなし会（一七回、テーマは「とり」「ブタ」「アジア」「虫」など、ボランティア四〇名参加）、物語体験ワークショップ（七回）、物語体験クラブ（三日間、連続三回）、「虫をさがそう」（講師：荒谷邦雄）「アニメーションを作ろう」（講師：小谷佳津志）「こばあそび大会」「街頭紙芝居」（出演：三巳会）「冬の詩を楽しもう」「おたのしみ会」「カルタとり大会」「人形劇＝きつねのポイティ」（出演・当館人形劇講座受講者）を行いました。加えて左の行事も行いました。

◆夢の池劇場（五月三、四、五日）

・五月三日「バオバブの木の下で―西アフリカおはなし村から」出演＝江口一久（国立民俗学博物館教授）、河辺知美・ンコシ（西アフリカの太鼓演奏家）

・五月四日「ロシアとチェコのアニメーション」（「アリのぼうけん」ほか）

・五月五日①講演会「ロシアの動物児童文学」講師：田中泰子（大阪外国語大学教授）②人形劇「ハリネズミと雪の花」上演：劇団ひぼぼたあむ（子どもゆめ基金助成事業）

◆作家を招いた行事

・八月二三日「ドイツの絵本作家ユッタ・バウアー」のワークショップ

・三月二〇日「杉山亮・物語ライブ」（＝写真子どもゆめ基金助成事業）

こども室行事の全参加者数は二一六六名でした。

杉山亮・物語ライブ

第二〇回「ニッサン童話と絵本のグランプリ」

日産自動車（株）の協賛を得て、当財団が主催している「ニッサン童話と絵本のグランプリ」は、童話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登竜門ともなって高い評価を得ています。

今回の第二〇回の応募総数は、童話三〇五九編、絵本九七八編で、童話・絵本ともに回を重ねるごとに作品のレベルが向上してきています。

厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、二月三日に日産自動車本社で表彰式が開催され、あわせて二〇回を記念して河合隼雄氏（文化庁長官）の講演が行われました。

＊童話の部

【優秀賞一席】

「はいけい、たべちゃうぞ」　福島サトル（埼玉県）

【優秀賞】

「お父さんのコントラバス」　光飛田佳世（東京都）

「走れ、走れ！しゅうへい号」　葵つばめ（神奈川県）

「月夜の食卓」　前田智子（福島県）

＊絵本の部

【大賞】

「かかしごん」　成田聡子（愛知県）

【優秀賞】

「声」　富田真矢（福岡県）

「もうすこしとおく」　宮越暁子（埼玉県）

「楽園のはじまり～ノアの箱船　その後のものがたり～」　suika（長野県）

（敬省略）

人事

窪田美鈴（専門員）二〇〇三年六月九日付採用

水間千恵（専門員）二〇〇三年七月一五日付採用

今田俊直（事務局長兼総務部長）

二〇〇四年三月三一日付退職